

服薬管理(残薬調整)の推進にかかる取り組み

平成27年度、医師から処方された薬の患者宅における管理状況や残薬の実態について藤井寺保健所が調査を実施

(調査結果)

- 協力の得られた43薬局、患者66名
- 残薬平均額7,786円、最大額104,750円
- 飲み忘れの理由:「つい飲み忘れる(31件)」「自己判断(16件)」等
- 「保管場所を1か所にまとめる」「一包化」等を行っている患者は、残薬が少なかった。

この調査結果を踏まえて

平成28年度モデル事業として以下を実施

【服薬管理(残薬調整)、残薬リスク・飲み忘れを防ぐ工夫の啓発】

薬局薬剤師が患者及びその家族等に医薬品の適正使用の観点から残薬のリスク、お薬の飲み忘れを防ぐ工夫を啓発する。

また、お薬持参袋(ブラウンバック)の活用や他職種からの情報提供に基づく服薬管理(残薬調整)を実施する。

⇒ **コンプライアンス・アドヒアランスの向上 & 残薬問題の解消**

○実施地域 藤井寺保健所広域管内の薬局 354件

○スケジュール

H28.8 大阪府薬剤師会へ事業委託

H28.8 事業参加薬局を対象とした説明会の開催

H28.9~11 モデル事業の実施

H28.12~H29.1 事業結果の集約

H29.3 報告書とりまとめ

○今後の課題

モデル事業の成果を府内の他地域へ展開し、薬剤師・薬局のかかりつけ機能の強化を図る

【概要図】



ブラウンバック(運動)とは:
薬局が、患者に医薬品を入れるバッグを配布し、
患者は服用している薬を入れて薬局に持参する。
薬剤師は内容を確認して服薬指導等の薬学管理を実施する。

【啓発の流れ】

①自己紹介・声掛け

②服用薬の確認(薬歴・お薬手帳の活用)

③服薬指導 ← ○お薬手帳のない方・1冊にまとめていない方

ア. 服薬状況の確認
服薬状況の確認
(残薬の内容の確認)

お薬手帳の重要性について説明

a. 服薬良好(残薬なし)

b. 服薬に問題あり(残薬あり)・服薬状況が不明(把握できない)

**残薬のリスクを啓発。ブラウンバック(お薬バッグ)の配布、
服薬管理・残薬調整**

イ. お薬の飲み忘れを防ぐ工夫を啓発

・ 1か所にまとめて保管する、一包化、お薬カレンダーの利用 等